

第11回和光市未来技術地域実装協議会及び 第2回和光市レベル4モビリティ・地域コミッティ 議事要旨

1. 日 時： 令和7年1月23日（木） 13:30～15:00

2. 出席者： 出席委員名簿のとおり

資料(1)、資料(2)

3. 議 事： 【報告事項】

(1) 自動運転サービス導入事業における2期社会実証の結果報告
について

資料(4)

(2) 第4回和光市自動運転サービス導入事業におけるワーキング
の開催結果について

資料(5)

【議事事項】

自動運転サービス導入事業に関する令和7年度以降の事業計画
(案) について

資料(6)

4. 要 旨

(1) 報告事項「自動運転サービス導入事業における2期社会実証の結果報告について」及び
「第4回和光市自動運転サービス導入事業におけるワーキングの開催結果について」
を資料(4)(5)を基に報告し、意見を確認した。

<委員からの主な意見・質疑内容>

- ・無信号交差点において、路車協調システムによる物標の検知率は約96%と高い水準を記録することができた一方で、運転補助員の意見として本当に検知して止まるのか不安であるという点が挙げられたため、その改善策として、バス車内にて物標を検知した旨をアナウンスすることができれば、運転補助員や試乗者の不安が払拭されると思われる。引き続き改善していただきたい。

⇒ システム開発者の先進モビリティ㈱と連携を図りながら改善したい。

(2) 議事事項「自動運転サービス導入事業に関する令和7年度以降の事業計画（案）について」を資料(6)を基に説明し、以下の内容の質疑を行い、採決した。

⇒ 採決結果：賛成多数で可決

<委員からの主な意見・質疑内容>

- ・フェーズ3に向けて説明資料に記載の手順に沿って進めていく必要があると思うが、事業費の面がやはりネックになると考えており、和光市の負担も多くなってしまうことが予想される。そのため、SGリアルティなどと上手に連携してコストを抑えても

らいつつ、国土交通省等の補助を活用し推進してほしい。

⇒ 技術面・コスト面ともに計画通りにいかないことも視野に入れながら、様々な工夫を凝らして進めていきたいと考えている。

- ・導入予定の大型EVバスについて、説明資料には航続距離が240kmと記載されているが、令和11年度の想定だと運行距離4.7kmの28便で合計130kmほどとなるため、走行フィールドのアップダウンの多さや搭載する機器の重さなどを加味してもバッテリー的に問題はないのか。

⇒ 高低差があるルートでも航続距離240kmの80%程度は問題なく走行できると想定している。

- ・バス専用通行帯の整備が3段階に分けられているが、2車線に整備した上で、片側一車線を自動運転の運行に活用するという認識で良いか。

⇒ 年度ごとに段階的に整備を行っていき、バス専用通行帯の整備が済んだ箇所の片側一車線をレベル4で走行させる計画となっている。

- ・大阪万博で走行した車両を活用するという点について、今後、大阪万博自体がニュースなどで取り上げられ盛り上がるのが予想されるため、市民にとっても身近に感じる機会が増えるので、引き続き広報に力を入れ、市民への認知度と理解度を広めるべきであると考えている。

⇒ 承知した。

- ・1期から2期にかけて走行の滑らかさは格段に向上したと考えている一方で、課題も出ている認識である。車庫から駅までの車両の移動手段や、車両事故等により稼働できなくなったときの対応など、イレギュラーな状況における対策について引き続き考えていきたい。

⇒ 市として想定できないこともあるため、事前に懸念事項等を出していただき、それを認識して対策案などを検討していきたい。

- ・フェーズ2において大型バスを使用した社会実装を目指すとする。路線の特性から、単位時間での輸送力が求められるため、進めていただきたいと思う半面、現行の車両でも停止等の場面で「車酔い」をするのではないかと意見が出されていることを踏まえると、その点の解決がなければ、利用者から選ばれる手段とはならないと考えられるが、この点についてどう対応するか。

⇒ 大型EVバスの仕様として、滑らかな減速が可能となる回生ブレーキが採用されていることから、利用者の快適性は向上すると考えている。大型EVバスの導入後も実証実験を行う予定であるため、引き続き試乗者アンケート等で意見を収集し、対応について検討していく。

以上